

社会福祉 しずおか

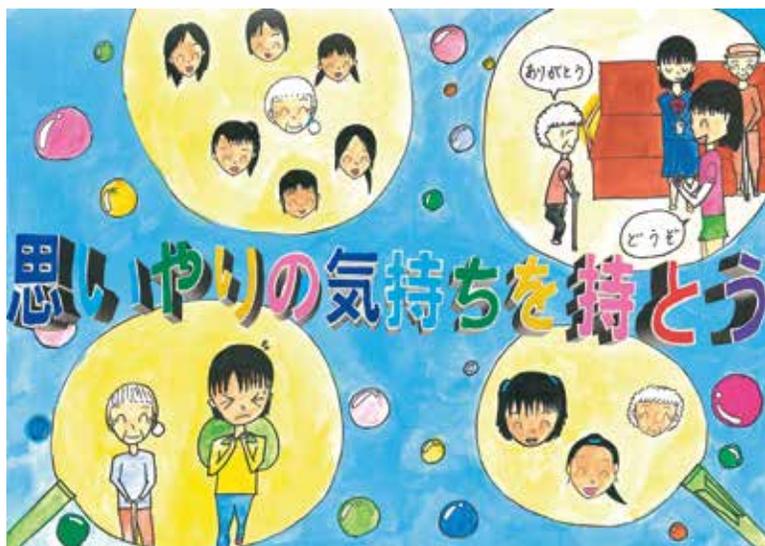


特集 集合住宅団地の支え合いを考える



テーマ やさしさでつながる福祉(しあわせ)のまち

平成27年度福祉のまちづくり
絵画コンクール優秀作品を紹介します



★静岡県社会福祉協議会長賞
静岡県清水区三保第二小学校(6年) 吉田 星里
「思いやりの気持ち」
老人、車椅子の方にやさしくしてあげられるようなポスター。



★静岡県百貨店協会会長賞
函南町立西小学校(4年) 内藤 叶望
「ありがとうの花 さかせよう」
ありがとうの気持ちを花にして、咲かせて明るいまちにしたい。

※学校名、学年は平成27年度のものです。

編集発行



社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

〒420-8670 静岡市葵区駿府町1番70号 電話.054-254-5248 FAX.054-251-7508 <http://www.shizuoka-wel.jp>
E-mail spcsw@shizuoka-wel.jp

集合住宅団地の支え合いを考える ～住み慣れた地域で安心して住み続けるために～

1950年代以降、高度成長と人口増加を背景として全国各地に数多く建設された集合住宅団地では、経年による設備の老朽化や高齢化の進展や人口減少にともなう空室の増加などにより、自治機能が低下し、様々な生活課題が表出するとともに、コミュニティの維持も困難になってきているところも少なくありません。

静岡県内においても、高齢化及び高齢者世帯割合の急速な増加や孤立死の発生など、様々な課題を抱えています。これら顕在化してきた状況に対し、当該団地の自治会・町内会、民生委員児童委員、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会など、様々な団体が地域の問題として捉え、課題解決に向けて取り組むことが求められています。

今回は、県内の団地の現状や課題、先駆的に住民活動に取り組んでいる事例をご紹介します。

※集合住宅団地とは、

公営やUR(都市再生機構)により、複数の住棟の集合住宅を一団の土地に計画的に開発・供給されたもの。

なお、一棟に何百戸もある板状の高層住棟やタワー型の超高層住棟などの民間の分譲マンションにおいても、供給から30～40年と年数を経るなかで、高齢化・孤立化が進展し、住民相互の見守りやつながりづくりが求められているという点では、集合住宅団地と同様の課題を抱えていると考えられます。

(参照:「地域とつながる集合住宅団地の支え合い—コミュニティ力ですすめる12の実践—発行:特定非営利活動法人全国コミュニティアイサポートセンター、監修:日本福祉大学社会福祉学部教授児玉善郎)」

静岡県内の公営住宅 (県営住宅)の現状

静岡県内の県営住宅は、平成27年4月

1日現在、143団地15,195戸です。

15年前(平成12年)に比べ、①入居

戸数は約9割に減少、②入居者数は

3分の2に減少、③入居者の平均年齢

は約11歳上昇、④未就学児童の世帯

割合は激減、などの変化が見られます。

なかでも、高齢者の割合は増加傾

向にあり、15年前(平成12年)の県全

体の状況と比較すると、県営団地に

おける高齢者のみ世帯の割合は1.5倍

に、また、一人暮らし高齢者の割合は

2倍に増加しています。

特に、高齢者の単独世帯の増加は

顕著であり、過去最多の2,756世

帯にのびりました。15年前の804

世帯の3.4倍超であり、孤立死も増加

傾向にあります。

単身世帯の増加や高齢化が進むな

かで、立地や建物環境の問題も加わり、

制度だけでは解決できない課題(ゴミ

(表1) 県全体及び県営住宅の高齢者の割合(※静岡県住宅供給公社提供)

		平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成27年度
高齢化率 (高齢者割合)	県全体	17.2	19.8	23.0	26.8
	県営住宅	8.3	12.7	17.9	25.1
高齢者のみ 世帯の割合	県全体	10.1	13.6	17.8	22.6
	県営住宅	9.4	15.6	22.5	31.2
一人暮らし 高齢者の割合	県全体	4.7	7.1	9.1	11.9
	県営住宅	5.5	10.2	14.9	21.4

表2) 県営住宅の独居高齢者の推移(※静岡県住宅供給公社提供)

年度	独居高齢者(世帯)	全体入居者(世帯)	割合(%)
平成12年度	804	14,600	5.5
平成17年度	1,465	14,362	10.2
平成22年度	2,053	13,735	14.9
平成27年度	2,756	12,868	21.4

出しやビンの開け閉めなど日常生活上のちよつとした困り事、通院や買い物(の困難など)が増えています。

これらの状況に対し、静岡県住宅供給公社では、課題解決に向けて、様々な取組を進めています。

① テレフォン安心サービス

月2回、希望する単身高齢者に対

し、「安否確認コール」を実施

② 高齢者ふれあい生活相談会

③ 緊急連絡先ステッカーの貼付(全団地全棟)

④ 見守り協定の締結

25の民間業者・団体と協定を結び、

入居者の異変や緊急事態を察知

した際に公社に連絡

⑤ 居場所づくりの動機、きっかけづくり

県内団地の取り組み

①七尾団地(熱海市)

県営七尾団地は、熱海市の北東に位置する伊豆山地区にあり、JR熱海駅からおよそ4.3km、急坂を登ったところにあります。

七尾団地には、戸数260戸に対し、平成28年4月時点で、189世帯、337人弱の入居者が生活されておられますが、平成18年度から開始された県再生計画により入居募集が制限され、高齢者の割合がより一層高まり、単身高齢者の孤立死や事故、生活上の困りごと(買い物、外出支援など)の問題が深刻化していきましました。

そこで、七尾団地では、平成25年4月から団地集会場を活用し、誰もがいつでも気軽に集うことができる居場所「七美クラブ」を開設しました。平日午前10時から午後4時まで(木曜日以外)オープンしており、囲碁や

将棋、健康麻雀(特に大人気)、カラオケ、雑談など、それぞれが自由な時間を過ごしています。それ以外にも、県住宅供給公社から寄贈された血圧計で血圧を測定しにくる人や、年をとつて力がなくなりビンの蓋が開けられないと持つてくる人など、日々様々な人たちが顔を出しています。

そうしたなか、平成28年2月からはコンビニ店チェーン「セブンイレブン」による移動販売が始まりました。七尾団地から市中心部の大型スーパーまで買い物に行くためには、往復で1,000円以上のバス代がかかってしまうため、社会貢献したいという近隣オーナーの好意により、約200種類の商品をそろえた移動販売車が毎週2回、団地を訪れ、各棟をまわって販売しています。各棟をまわられるため、「足が痛く、階段の上り下りがつらい人にとっては大変助かる」、また、「在宅介護されているお宅には個別に顔を出してくれるため、見守りにつながっている」と感謝の声が聞かれていました。

団地では、居場所づくりや買物支援以外にも、高齢になっても安心して生活し続けられるように、住民のちよつとした困りごとや小さな気づきに対して、社会福祉協議会や地域包括支援センター、商店、周辺地域など社会資源と連携し、二つひとつ解決策を探っておられます。



▲初めてみる商品に興味津々な様子。この時期、野菜や豆腐が人気です。



②原団地(沼津市)

県営原団地は、JR原駅から東へ徒歩20分で、沼津市原の沼津バイパス近くにあります。

昭和52年から入居が始まり、平成28年4月時点で、戸数650戸に対し、525世帯、1,121人の方が生活されています。

原団地はもともと自治会活動が盛んで、年間を通じて子どもから高齢者を対象とした様々な活動を実施してこられました。しかし、一人暮らしの高齢者や認知症高齢者の増加により、高齢者が閉じこもりがちになり、地域との関わりが薄れていくなかで、高齢者をめぐる課題が顕在化し、いかに地域で見守っていくか、地域とつな



▲健康麻雀を楽しむ参加者(先輩のアドバイスを受けて日々熟練されています)

がつていくかという問題に直面されま
した。

そこで、自治会行事等に参加する
ことが少ない高齢者が、気軽に参加で
きる居場所づくりを目指して、沼津
市社会福祉協議会や地域包括支援
センターの協力のもと、2月に「居場

所カフェ」体験会を実施しました。参
加した住民からは、「楽しかった」、
「またやって欲しい」との声に加え、
「(ある団地住民の方と)数年振りに
再会することができた」と大変貴重
な機会になったことから、平成28
年度から本格始動することになりま
した。

平成28年4月、「ぬまづはら県、s
(ケンズ)ルーム」を立ち上げ、月1回
(第3木曜日)、午前10時から午後3
時、団地内集会所で「居場所」をオー
プンしています。居場所では、市や地
域包括支援センターの教室(健康、認
知症予防)や団地住民による舞や読
み聞かせなどが行われています。その
後は、持参の昼食を囲み、会話を花を
咲かせたり、それぞれに自由な時間

を過ごしています。

また、階段の上り下りが困難な方
や一人暮らしで栄養が偏りがちな方
のために、8月からはセブニーイレブン
による「セブンミール」の導入が始まり
ます。

どんな商品があるのか興味のある
方や、今はまだ必要ないが、いざと言
う時にこういったサービスが利用でき
るとわかるだけで安心感があるとい
う方など様々でした。

この居場所では、「閉じこもりがち
で地域とのつながりが薄いと、支援を
必要としている人の存在に気づきに
くい、状況が深刻になる前に困りごと
を発見していきたい」との思いから、
情報提供や啓発活動などを積極的
に行っておられます。また、「住民の困
りごとや関わりの度合いは、個々の生
活状況などにより様々なので、取組を
進めるなかで、個々の状況に配慮しな
がら、一人ひとりに合った関わりを増
やし、住民にとって安心して暮らせる
団地を作っていきたい」というのが当
団地自治会古川会長さんの思いです。



▲団地住民(みきの会)による舞や出し物(詐欺被害防止の呼びかけ)



▲沼津市社会福祉協議会から寄贈された看板と一緒に笑顔の古川会長

静岡県社協では

単身世帯の増加や高齢化が進む中
で、一人暮らし高齢者の課題は公営団
地に限らず、大量に供給が進んだ民
間の分譲マンションや単体の集合住宅
など、規模の大小等にかかわらず、同
様な状況を迎えることが想定されま
す。また、地域(団地)においては、高
齢者だけでなく、ひとり親世帯の子
育て支援や外国籍住民の支援など、
多様な対象への支援が求められます。
そのため、本会では、関係機関・団
体等と連携し、住み慣れた地域で安
心して暮らし続けるために、県内あ
らゆる地域(団地)において、居場所づ
くり等を通じて、住民同士のつなが
りづくりや孤立する住民の見守り、
困りごとへの相談など、住民相互の支
え合い活動について、住民意識の向上
と仕組みづくりを図っていきます。

熊本地震 静岡県災害ボランティア活動報告 第3弾

7月号、8月号で報告しました熊本地震に係る嘉島町への災害ボランティア派遣に引き続き、第7次隊では高校生・大学生ボランティアが現地で活動してきましたので報告します。

ボランティア活動について

- 1 活動場所** 熊本県嘉島町
- 2 活動内容** 仮設住宅での足湯・お茶っこ交流、清掃活動、メッセージボードづくり等
- 3 活動期間** [第7次隊]8月16日(水)～8月19日(金)
- 4 活動人数** 県内高校生・大学生25人、社会人2人、事務局5人

足湯に来てくださった方とは、被災されたときの様子や、仮設での生活を伝えてもらいながらも笑顔で会話ができ、リラックスしていただけたと思います。

学生全員が現地の方々と交流をしました。実際に現地でもボランティアをしている方の話を聞くことで、静岡でも来るといわれている南海トラフ巨大地震が来た時に自分たちにできることは何なのか、どのような備えをしておくべきなのかを考えるよいきっかけになりました。(静岡県立大学 森藍香)

ボランティアを終えての感想

学生の皆さんは、この経験を今後活かしていきたいと語ってくれました。

私は、今回が初めてのボランティア活動であった。現地でボランティア活動をされている森下さんの話を聞くまでは、ボランティアとしてどのような心意気で参加すべきなのか正直わからなかった。実際に現地で足湯活動をしてみたら、ボランティアとして被災された方とどのように関わり、どういった支援をしていけるのかが自分なりに分かった。

4日間という短い期間ではあったが自分が大きく成長することができた。(常葉大学 土屋一成)

地震の爪痕がいたるところに残り、正直とても驚きました。自分の目でどれだけ恐ろしいことが起きたのか改めて実感させられました。

また被災された方たちと関わることで、改めて人との繋がり大切さ、自然災害の怖さを学びました。(常葉学園高等学校 樽井茉莉)



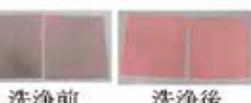
カーテン・リース&クリーニング

特許取得の出張クリーニング車にて施設に訪問、取外し、クリーニングから取付けまで全ておまかせの予備不要短時間低料金システムでお献び頂いています。ほずれ程度の補修から欠落部品の補充サービスまで実施します。

メンテナンス付リースでカーテンはいつもきれいです



カーペットタイル・リース&丸洗い洗浄



全国初、カーペットタイル丸洗いシステム。◆汚れ頻度の高い店舗、ゴルフ場 ◆衛生面で除菌消臭に気配りが必要なホテル、保育室 ◆短時間乾燥では休館日が無く人の往来が激しい老人ホームなど多様な施設でお役に立ちます。

販売から後々のメンテナンスまで・・・

株式会社ミナツ

静岡市葵区産女1060番地の1
☎054-295-9002 Fax054-295-9003

独自洗浄方式開発によりメンテナンス対応が拡がりました。

洗浄から乾燥迄、短時間で、行い、リースも可能に、ブラインドもOK



当社独自の舞台幕メンテナンスです大変お喜び頂いています。

ご注文の時期が集中します。御早めに予約願います。



カーテンレールは勿論の事、ロールスクリーン・シェード・ブラインドに至るまで修理修繕対応します。



ロールスクリーンクリーニング

学校の舞台幕(緞帳)

修理・修繕

「ABCしあわせ基金」寄附金並びに車両贈呈式

平成28年8月4日、「ABCしあわせ基金寄附金贈呈式及び車両贈呈式」が執り行われ、株式会社ABC様（代表取締役社長 富田直樹氏）から「ABCしあわせ基金」に500万円の御寄附をいただきました。

「ABCしあわせ基金」は、今年で14年目を迎え、寄附総額は1億141万円にも及びます。

また、寄附金をもとに今年度は3団体に車両が贈られ、寄贈車両総数は累計62台（28年度含む）となりました。贈呈式では、株式会社ABC富田直樹代表取締役社長様から御挨拶をいただき、その後、富田英児代表取締役副社長様並びに県社協の神原会長から、寄贈先3団体の代表者にゴールデンキーが授与されました。

ゴールデンキーを手にした代表者からは、喜びと感謝の言葉とともに、改めて事業の熱意が述べられました。「ABCしあわせ基金」のロゴの入った車両が、県内各地で活躍しています。

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会「ABCしあわせ基金」について



静岡県、山梨県、長野県で38店舗のパチンコホールを展開している株式会社ABC様から、創業50周年の記念事業の一環として、在宅福祉活動の充実と発展を図ることを目的に寄附いただいた浄財により、平成15年に設置されたものです。以来、本会を通じて毎年社会福祉団体や民間非営利活動団体等へ車両を寄贈しています。



寄附金並びに感謝状の授受
右から寄附者・富田社長、富田副社長、寄附受領者・神原会長、杉田常務理事



株式会社ABC 富田直樹 代表取締役社長



富田副社長と神原会長からゴールデンキーの授与



富田社長、富田副社長、神原会長、運営委員の方々（前列）
寄贈先3団体の方々（後列）

平成28年度寄贈先団体

社会福祉法人「熱海いでゆの園」

事業内容：老人デイサービス、特別養護老人ホーム事業等
寄贈車両：ホンダ フリード

特定非営利活動法人「ららの家」

事業内容：放課後等デイサービス、地域交流事業
寄贈車両：ダイハツ アトレーワゴン

特定非営利活動法人「すかい」

事業内容：放課後等デイサービス、生活支援に関する事業
寄贈車両：ダイハツ タント



静岡県社会福祉人材センター研修課主催の研修会のお知らせ

平成28年11月開催分をお知らせします。

★ラクラク申込み「WEB サービス」(会員対象)を御利用ください!
→WEB サービスサイト <http://www.shizuoka-wel.jp/member/training>

研修NO	研修名	開催日	会場	対象者	内容・講師
1	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者コース(中部3)	11/7 11/19~20	シズウエル	初任者(概ね入職後1~2年程度の職員)	・サービス提供者、チームの一員としての基本の習得 ・福祉職員が自らのキャリアデザインを描く 講師:福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程指導者
2	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員コース(中部2)	11/30 12/8~9	シズウエル	中堅職員(概ね入職後3~5年程度の職員)	・中堅職員としての役割を遂行するための基本の習得 ・中堅職員が自らのキャリアデザインを描く 講師:福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程指導者
8	福祉職場の組織性向上講座	11/10	シズウエル	社会福祉施設・介護保険事業所等に勤務する方	中堅職員に求められる組織人としての役割行動や、モチベーション向上のための知識、技能の習得 講師:日本女子大学 人間社会学部社会福祉学科 教授 久田 則夫 氏
39	フットケア講座	11/9	シズウエル	老人福祉施設・介護保険事業所等に勤務する方	高齢者への支援方法としてフットケアの知識・技術の習得 講師:合)SANUA 湯河原接骨院グループ 総院長 青柳 博 氏
46	精神疾患の理解	11/14	シズウエル	社会福祉施設・介護保険事業所等に勤務する方	精神疾患、うつ、統合失調症などの知識を習得するとともに、症状に応じた支援方法を学ぶ 講師:静岡県精神保健福祉士協会 会長 澤野 文彦 氏
49	快適なシーティング講座(研修名変更)	11/8	シズウエル	社会福祉施設・介護保険事業所等に勤務する方	生活場面における正しい座り方の技術や拘縮予防の方法等を学ぶ 講師:(有)で工房 取締役会長 光野 有次 氏
52	社会福祉ミニセミナーA 面接テクニック学習セミナー	11/24	シズウエル	社会福祉施設・介護保険事業所等の採用担当職員	最近の就職活動の現状と採用面接の種類・極意等を学ぶ 講師:(株)はあもにい 代表取締役 大野 晴己 氏
52	社会福祉ミニセミナーB (仮)発達障がいを知るセミナー	11/24	シズウエル	社会福祉施設・介護保険事業所等に勤務する方	発達障がいへの正しい理解を深め、より良い関わり方について学ぶ 講師:(有)アズ 代表取締役 アズ 直子 氏
103	福祉職のためのリフレッシュ講座 ~笑いヨガとアロマテラピー~	11/16	シズウエル	社会福祉施設・介護保険事業所等に勤務する方	福祉職のストレスケアのためのリフレッシュ方法の習得し、職場での活用方法も学ぶ 講師:日本笑いヨガ協会 横山 正子 氏 アクトインターナショナルスクール 講師

◎最新の「研修開催の情報」を、電子メールで事業所様にお知らせします!

kenshu@shizuoka-wel.jp に ①事業所名 ②事業所種別 ③電子メールアドレスを入力の上、件名「研修開催の情報 メール送信希望」として送信してください。なお、2 か月経過しても配信がない場合は、下記研修課まで御連絡下さい。

◎福祉職員生涯研修は、平成28年度から福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程に改定しました。

☆詳しくはホームページをご覧ください [静岡県社協 研修](#) 問い合わせ先: 研修課 電話 054-271-2174

賛助会員を募集しています

静岡県社会福祉協議会は、県民の皆さまや様々な機関・団体と連携し、「福祉のまちづくり」を目的とした事業を実施しています。

福祉の推進に向けた意識啓発

人材養成(育成)

担い手確保

地域福祉活動の推進

権利擁護の充実

情報提供

福祉事業者支援

災害ボランティアセンター

こうした本会の活動に賛同し、資金的な援助をしていただける賛助会員を募集しています。

会費(年額)

○個人 一口/2,000円 ○法人・団体 一口/10,000円 ※何口でも御加入いただけます。

特典(賛助会員)

- 1.機関紙「社会福祉しずおか」を毎月お届けします。
- 2.社会福祉に関する情報「メールマガジン」(月2回)を配信します。
- 3.法人・団体会員には、県内「社会福祉施設・団体要覧」(年1回発行)をお届けします。
- 4.申告により、所得税・個人住民税、法人税等の優遇措置を受けることができます。

申込みについて

入会申込書に必要事項を御記入の上、下記までお送りください。
書類を確認後、こちらから会費のお支払等の御案内をお送りします。
※なお、入会申込書は本会ホームページ(<http://www.shizuoka-wel.jp/>)からダウンロードすることができます。

書類送付・問い合わせ先

〒420-8670 静岡市葵区駿府町1番70号 静岡県総合社会福祉会館シズウエル
社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 総務課
TEL054-254-5248 FAX054-251-7508

ありがとうございました



県社協への寄附金

日立グループ「親切会」中部支部 様から
本会（ふれあい基金）へ100,000円の寄附を
いただきました。（6月28日）

静岡県社会福祉協議会ふれあい基金 寄附金贈呈式



左) 親切会中部支部 支部長 太田 勝規様
右) 本会事務局長 松浦 康夫

先月号の掲載内容に誤りがございました。
誤) 支店長→正) 支部長、また、右)左)の表記が逆でした。
訂正しお詫び申し上げます。

FUTABA「道の会」様から本会（一般寄附金）
へ10,000円の寄附をいただきました。（8月2日）

YAMAHA
感動を・ともに・創る

音楽を灯そう。

明かりとともに、音楽がとけこむ心地よさを
毎日の暮らしのなかへ。
ライティングオーディオ「レリット」です。

ヤマハ ライティングオーディオシステム
Relit Light & Music
Blending into One

ヤマハ株式会社

第5回静岡県福祉広報紙コンクール作品募集!

■応募要件

締切 10/31(月)

「福祉サービス事業所部門」「市民活動団体部門」共通
・年1回以上、定期的に発行している広報紙で平成27年4月
1日以降に発行のもの

■応募方法

応募用紙、広報紙4部（同じ号のもの）を郵送してください。
☆2部門において最優秀賞・優秀賞・奨励賞を決定。
☆選ばれた事業所・団体には、副賞として商品券を贈呈します。

■郵送先/お問合せ先

〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70
静岡県社会福祉協議会 福祉企画部地域福祉課
TEL054-254-5224

※コンクール応募用紙など詳細は、県社協ホームページを御覧ください。
HPアドレスはこちら⇒<http://www.shizuoka-wel.jp/>

“ふくしの「広報」応援講座”
参加者募集中!!
申込書はHPから
ダウンロードできます

平成28年度「老人の日・老人週間」キャンペーン



標語:みんなで築こう 活力ある長寿社会



■キャンペーンが目指す6つの目標

- (1) すべての高齢者が安心して自立した生活ができる、保健・福祉のまちづくりを進め、ふれあいの輪を広げよう。
- (2) 高齢者の知識、経験や能力をいかした、就労・社会参加・ボランティア活動を進めよう。
- (3) 高齢者の生きがい・健康づくり、介護予防への取り組みを進めよう。
- (4) 高齢者の人権を尊重し、認知症高齢者への支援のあり方や介護問題等をみんなで考え、高齢者や介護者を支える取り組みを積極的に進めよう。
- (5) 超高齢社会における家族や地域社会等の役割を理解し、お互いに協力して安心と活力ある長寿社会をつくろう。
- (6) 減災や防災への取り組みに関心を持ち、日頃から地域でのつながりを築こう。



9月15日は「老人の日」、9月15日から21日までの1週間は「老人週間」です。

主唱・協賛

□主唱/内閣府 消防庁 厚生労働省 全国社会福祉協議会 全国老人クラブ連合会 長寿社会開発センター
日本医師会 日本歯科医師会 日本薬剤師会 日本看護協会 日本社会福祉士会 日本介護福祉士会

□協賛/NHK 日本新聞協会 日本民間放送連盟